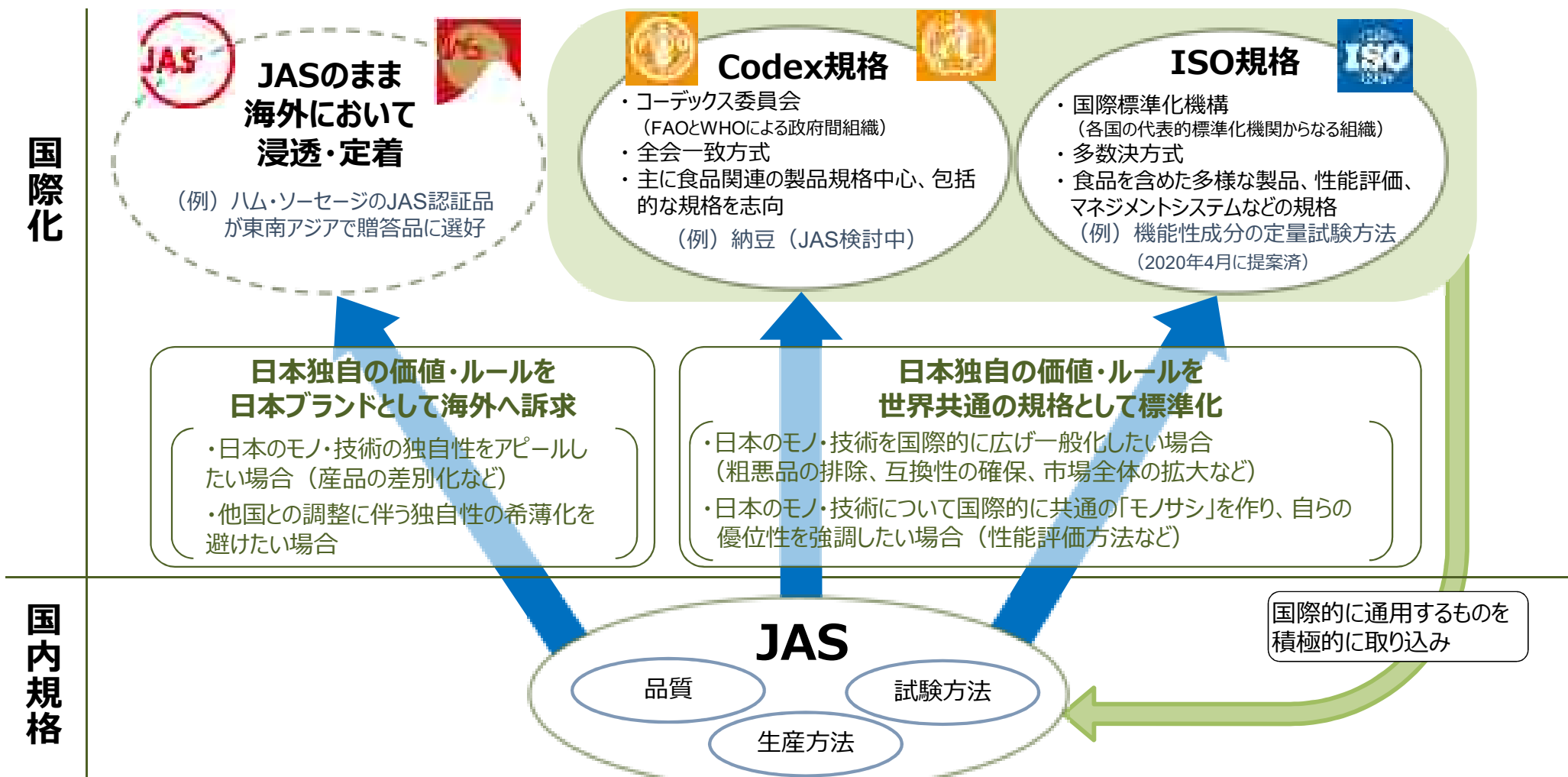


海外でのJASの認知度・影響力を高める国際化

- 食品・農林水産品の輸出力強化が課題となる中、海外との取引を円滑に進めるためには、日本の事業者にとって取り組みやすく有利に働く規格の制定・活用を進めるとともに、その国際的な認知度・影響力を高めていくことが不可欠。
- そのための手法としては、①日本発の規格である**JASと調和のとれた国際規格を制定**する手法、②日本発の規格である**JASそのものを海外において浸透・定着**させる手法があり、それぞれの規格ごとに、規格の目的や対象、影響力、実現可能性等を勘案した上で、戦略的に選択していくことが重要。



<対策のポイント>

民間の取引条件等の課題を解決し、輸出拡大に向けた環境を整備するため、**輸出実績の向上に貢献するJAS等の国際標準化を推進**します。

<事業目標>

農林水産物・食品の輸出額の拡大（2兆円〔2025年まで〕、5兆円〔2030年まで〕）

<事業の内容>

1. 国際規格等の制定

ISO規格等の国際規格の制定に向け、**国際標準化戦略の検討、技術的データの収集、関係者間の合意形成、海外との折衝・調整、規格の実証・検証等**を実施します。

2. 国際標準化等にかかる専門人材の育成

民間企業等における、国際規格文書の作成・解釈や国際会議での交渉に精通した**専門人材を育成するための研修**を実施します。

3. JAS原案の作成、規格の実装・検証

JASの制定に向け、**技術的データの収集、関係者間の合意形成、規格文書の作成等**を実施します。

規格の有効性・実現性を検証するため、**試験方法規格の妥当性確認、サービス・マネジメント規格の実装・実証確認**を実施します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

- 輸出実績の向上に貢献するJAS等の国際標準化を推進

JAS等をベースとした国際規格の制定

1. 国際規格等の制定

2. 国際標準化等にかかる専門人材の育成

国際標準化活動の
実践

新規規格検討支援

3. JAS原案の作成、規格の実装・検証

国際標準化活動の
裾野拡大

- 農林水産業・食品産業に国際標準化のノウハウ・経験を蓄積
- 業界による積極的な国際標準化、国際規格の活用を促進



- 民間の取引条件等の課題を解決
- 輸出拡大に向け、規格に既に合致している我が国産品をそのまま市場に出せる環境を整備